

- 1 審議会名.....平成26年度 第3回安曇野市放課後子どもプラン運営委員会.....
- 2 日 時.....平成27年3月10日 午後7時00分から8時00分まで.....
- 3 会 場.....明科支所 2階第3会議室.....
- 4 出席者.....山田委員、青柳委員、水谷委員、木下委員、黒岩委員、横内委員、洞委員、高橋委員、筒井委員、山越委員、勝家委員、内川委員、荒深委員、上兼委員、鶴田委員、降幡委員.....
- 5 市側出席者.....橋渡教育長、北條教育部長、蓮井生涯学習課長、小笠原社会教育担当係長、田村社会教育担当、堀内子ども支援課長、浅川児童係長、平川児童係.....
- 6 公開・非公開の別 公開.....
- 7 傍聴人 0 人 記者 0 人.....
- 8 会議概要作成年日 平成27年3月13日.....

## 協 議 事 項 等

### 1、会議の概要

- (1) 開会
- (2) 教育長あいさつ
- (3) 会長あいさつ
- (4) 議事

- ①平成26年度放課後子ども教室事業報告について
- ②平成26年度放課後児童クラブ事業報告について
- ③放課後子ども総合プラン事業の今後の方向性について
- ④安曇野市放課後子ども総合プラン運営委員会設置要綱について
- ⑤その他

### 2、議事の概要

《事務局より資料の説明》

- (1) 平成26年度放課後子ども教室事業報告について
- (2) 平成26年度放課後児童クラブ事業報告について
- (3) 放課後子ども総合プラン事業の今後の方向性について

委員：情報交換について、DVとか特別な、子どもに危険にさらされるようなことの情報交換は当然なされるべきだが、一方、特別な支援を必要とする児童についての情報交換となると、個人情報に係わってくる心配がある。以前、中学校に進学の時に発達障害的な内容を伝えたことが保護者に分かって、そのことが非常に問題になった事例がある。学校間でも、義務教育の間でもそういう状況がある。学校から離れた方々にそういう情報を提供する時に、法的なものも含めてどうゆう体制が出来ているのか。

生涯学習課：今のことに関係して、これは国からこのような形で留意していただきたいということであり、今すぐ必ずやれということでは無い。この問題は丁度、豊科の放課後子ども教室の会議をやった折にもスタッフから特別な支援を必要とする子どもたちの情報を開示して欲しいとの話があった。学校としてはやはり子どもたちの個人情報もあり、難しいということで、今後どうしていくのか検討していきたい。その時にもまだどういうふうにするか、明確な形には至っていない。今後、いずれにしても研修にもありましたとおり、気になるお子さんがおり、スタッフもどのような形で子どもに接していたら良いか、研修をしておりますので、その情報提供をすぐするかどうかは、今後検討させていただきたい。

委員：児童クラブでも申請の段階で、特記欄に障害や、特別な支援をとということが保護者から記入があったり、保育園から配慮をしてほしいという情報をもたらすケースがある。昨年度から全館管理しているが、保護者の方に状況を聞き取ることを一番とし、保護者に許可を得て、保育園の様子、保育士の先生に様子をということで、なるべく行くようにしている。事前に、入学前に学校や医療機関と連携してやる機会が、なるべく児童クラブの担当も参加させていただく体制を取っている。入学後に関しても、保護者の了解を得た上で情報共有できる部分についてはしている現状。

会長：方向性として、とりあえず連携で行って、一体的な方向を模索していきたいという方向が出された。放課後学習室を総合プランの中に取り入れていくかどうか、検討していくという新たな方向性が出ている。

#### 《事務局より資料の説明》

##### (4) 安曇野市放課後子ども総合プラン運営委員会設置要綱について

委員：任期は2年ということだが、いつから2年か。来年もやらなければいけないのか。

生涯学習課：今の委員については、この3月で任期が終わる。4月から新たな委員を委嘱し、その委員から2年。PTAは役員が1年ごとで代わってしまうことが多いため、その場合は残任期間となる。1年交代になるかもしれないが、基本的には2年でやりたい。

生涯学習課：総合プラン運営委員会にするにあたり、今まで教育委員会で放課後子ども教室運営委員会を開催し、福祉部で児童館児童クラブ運営委員会を開催していたが、4月からは教育部で行う。放課後子ども総合プラン運営委員会で検討することとし、児童館児童クラブ運営委員会は3月を以って廃止とする。

##### (5) その他

委員：長野県では県の教育委員会が信州型のコミュニティスクールを、総合計画に出てくるが、安曇野市ではどのように考えているのか。

教育長：コミュニティスクールについて色んな情報を持っておられると思うが、教育委員会の中ではまだその言葉が共有されていないのが現状。実態としては、仕組みの基礎となる部分は安曇野市も十分醸成してきている。信州型コミュニティスクールという名称は使っていないが、近いものは出来つつあると思う。これまでの学校は、地域の中の学校だが、地域の住民がなかなか学校に入ることに壁があった。その壁を低くし、学校の中に地域の力を取り込もう、それにより学校も色んな課題を解決し、地域もまた元気になる。両方にメリットがある、というようなイメージをコミュニティスクールとして捉えてもらえば良い。そういう意味では、子ども支援に関する、今はクラブ活動や総合の時間に地域の方が入ってきてくださり、そういうことが既に行われている、土壌がある。コミュニティスクールという名前になるにはいくつか要件がある。それを少し整え、2年後くらいにはそういう名称を安曇野市も使っていけるようになれば良いと考えている。

委員：名称はどっちでも良い。内容的に、いわゆる信州型コミュニティスクールの一番の目的は、体験学習とか、あまり体験できない合宿通学を進めようと県はしているが、それを一気に考えたらどうかと言うつもりはない。それぞれ行政の考え方、地域の考え方があると思う。そういうものもあるということ、なかなか市民は分からない部分がある。皆が共有できるように、「わいわいランド」をやっている仲間でもそういうことを知らない人がいる。そういうことが分かるような、見える考え方を、安曇野市の子どもに関してお考えがあるのか聞きたかった。考えているのは分かった。

委員：児童クラブ利用者の登録者数に関して、利用者の延べ数の比較というところで、豊科地区の小学校

区の児童クラブを中心に利用者数が増加している。既に来年度の利用者の登録数も既に出ている。豊科地区の児童クラブを希望される児童の数が今年よりも既に多いところがある。キャパシティに対して児童の数が大分増加している。豊科東小とか、高家とか、特に長期休み期間中はその場所だけでは受け入れられず、今年度の夏休みも高家児童クラブは2ヶ所、急きょ社会福祉協議会の豊科支所で2ヶ所体制で行った。来年度に関してもこうゆうことが、今の計画段階で予想される中、市としての対策はどう考えているか。

子ども支援課：今後一体的に小学校の空き教室、あるいは空いたスペースを利用、活用して、全国的に受入が出来ない状況、キャパシティ不足をなんとかしていこうというのが国の示す方向。したがって、市として就学前は福祉部で担当し、就学後については教育委員会教育部で担当していくことを基本に、児童クラブの関係も教育部にということになった。その中で、小学校の施設を利用しながら、その不足分を埋めるべく、一体的な活用が出来れば。即やろうとしても難しいことがある。今まで利用してきたところもあるし、同じ小学校内の施設を使ってという部分もあるし、まだそこまでやっていないところもある。いきなりというのは難しいところもあるが、そういった方向が出ている以上、例えば三郷の児童館については増築という計画で昨年もいたが、入札が上手く行かず、27年度で仕切り直して三郷児童館の増築はやっていく方向になっている。豊科地域については、今後の中で児童館児童クラブ運営委員会の中でもお話をいただいた中だが、小学校の空きスペースを利用しての方向性になっている。児童クラブは現在小学校3年までが国の示す目安。市では小学校4年までとしているが、これについても即は無理だが、ゆくゆくは小学校6年までについて対応したほうが良いという方向性が出ている。そうすると更に施設が不足する。これから一体的にということでも方向性が出ている。

委員：保護者の申請窓口が、こちらに直接申請を上げてくる中で、使える家庭と使えない家庭があるのはどうしてか、現場に訴えがあったり、ちょっと待っていただいている家庭がある。現場としても出来ることは受け入れたいが、これ以上受け入れると安全確保が難しいのでという現場の意見もある。特に長期休み中は膨れ上がるので、どれだけ児童を受け入れて安全面に配慮できるのか見ながらやっているというところを知っていただきたい。